

## 著作権法にかかわる作品にご注意を

### 大阪アマチュア映像祭で実際に起きたこと

去る 11 月 17 日、大阪市立中央図書館で開催された大阪市図書館フェスティバル協賛「第 23 回大阪アマチュア映像祭」で上映後、大阪市立中央図書館の担当窓口の方に呼び出され、上映作品の中に著作権法に触れる作品があるので、納入の DVD 作品の中から当該作品を除いて頂きたい、との申し入れがありました。

確かに有名な曲で、しかも踊りの場面まで使われていたので目立ったのでしょう。当方もそれを受け入れて作品集の中から当該作品を消去し、改めて DVD のラベルと表紙を作り替えて納め直しました。

この大阪アマチュア映像祭で発表された作品の DVD は、第一回目よりずっと納入し、地下一階の映像コーナーで一般に貸し出されているものです。こういうことは初めてでした。図書館側の担当者も 2～3 年ごとに変わられますし、ネットの発達で著作権にも神経をとがらせて来ているのではないかと考えられます。

実は私の「望郷の郷」という作品も、出だしに細川たかしの「望郷ジョングラ」という 20 年以上前の演歌を聴いている場面があるのですが、これにはクレームは出ませんでした。古い演歌などはあまり問題視されないのかもしれませんが。また、有名人の映像が出ていないことも問題視されない理由の一つかと思います。

これから中央図書館での上映は毎年行われます。コンテスト出品作品ももちろんですが、著作権の事には注意していきましょう。グーグルマップ等も厳密に言えば過度に使っていると引っ掛かるかも知れません。

有名な曲は勿論ですが映像は使わないことを原則としましょう (合原)



### 12 月例会のお知らせ

- 12 月例会は年末なので 1 週間早く、21 日 (第 3 土曜日) 18 時より。
- 幹事の方は当日の 13 時より多目的室にて幹事会を、世話役の方は、15 時より同じ部屋で世話役会を開催。来年度役割分担や会計報告等
- 令和 2 年度 OMC 年会費 1 万円を会計に納めてください。

# 新年会のお知らせ

毎年、年の初めに会員一同、レストランにて新年会を催し親交を深めてまいりましたが、令和2年度も同様に新年会を開催致しますので是非ご参加ください。

なお、例年昼間に例会と総会を、そして夜に新年会を行ってきましたが、今回は会場の予約が取れなかったせいもあります。夜は出掛けるのがしんどいので昼間にやってほしいとの声もありますので、今回は祭日の昼間の新年会としました。

- 日 時 ; 令和2年1月13日(月・祭日) 12時より
- 場 所 ; 例会場の上のレストランにて
- 会 費 ; 5,000円(当日徴収いたします)
- 申し込み; 往復ハガキにて年内に会長宛届くように投函してください。

## 1月第2例会で4Kの話

近頃話題の4Kについて、進藤副会長より、ごく基本的な知識についてお話を伺います。第2例会1月16日(第三木曜日)、これも一つの勉強です。

## 11月通常例会レポート

11月例会は、第4土曜日が祭日で夜の貸室はありませんでしたので、第5土曜日の30日に18時より、いつもの難波市民学習センターで開催。外は急に寒くなりすっかり冬の衣服になったが、例会場は暖房が効いていて程よい室温で快適。しかし会員さんの集まりはこのところ減ったままで少し心細くなってきたが、作品の出品数は10本とまずまずの本数だった。

今月はネットで知ったという見学者が一人見えられ歓迎しました。

- 運営担当: 司会 進藤、書記 高瀬、映写岡本、メモリー記録 江村、受付 照明 森口、宮崎の各氏
- 出席者 : 江村、岡本、紙本、合原、進藤関、高瀬、中村、華岡、森口、森下、森田、宮崎、山本の14氏と見学者1名 中川氏は作品のみ
- 上映作品(今月の書記担当は高瀬氏)



### 1. スペイン「宮殿とフラメンコ」 BD 中川良三 10分20秒

#### 「作者コメント」

8年前にスペインに旅行に行った時の記録です。デジタルカメラの解像度が荒く、見づらいかも知れませんが、世界遺産のアルハンブラ宮殿と迫力のあるフラメンコの舞台を作品にまとめてみました。

また場所の紹介で使った「Google earth」は世界どこでも紹介できるのが驚きです。

#### 「会長コメント」

観光映画的によくまとめられていてそれはそれで良かったと思いますが、室内撮影はスチール写真を撮るようになったつもりで、カメラを動かさすぎないように、またグーグルマップの使用は最小限に使いましょう。

### 2. 一乗谷 BD 江村一郎 7分30秒

#### 「作者コメント」

4月に一乗谷からひと山超えたところにあった明智光秀の三女ガラシャ生誕地を訪れた。その際1ヶ月後に越前朝倉「曲水の宴」があることを知り再訪する。光秀の朝倉義景との関係を示す史料はないが、明智一家も一乗谷城下を往来していただろうと思うと楽しい。

#### 「会長コメント」

話題があちこち飛ぶのをノンナレーションで観客に理解させようとするご努力には敬服いたしますが、今ひとつ印象が散漫になってしまうのは、どうしたものか。題名の付け方にも一因があるかも。



### 3. 額田(ぬかた)のまつり BD 進藤信男 10分50秒

#### 「作者コメント」

兵庫県と京都府が接する、京都府福知山市夜久野。西日本唯一という回転する山車に加え、下ダシと呼ぶのみ農民芸術の創作物。材料は野山の幸。一本の古木「御神木」が神輿のように巡行するユニークな祭。神社の名も「一



宮」と書いて「イッキュウ」神社と読む。奈良時代初期に出来た古い町だ。京都にも近い所にあつてこんな素朴な祭がありました。

「会長コメント」

あまり知られていない地方の、こんな素朴な祭りがあるとは驚き。野山の幸で作る山車など、すっかり有名になった、近江八幡市の左義長祭りを思い出し夜久野の祭りのなんとつましやかな素朴で、伝統のある祭りかと改めて感じ入りました。

4. 私が旅した日本の絶景（西日本編） B D  
紙本 勝 13分40秒

「作者コメント」

第2例会の東日本編に続いて西日本編です。全国の絶景というところは各都道府県それぞれに沢山あり、私も数々旅したが、そのうちから選んだものです。

（書記コメント）

2回にわたり、一都一道二府四十三県すべての絶景を網羅された労作。この地域はどこかの絶景が登場するのかと、楽しみながら観させていただきました。

「会長コメント」

先月の東日本編に続いての西日本編ですが、改めて紙本さんの積極的な撮影行に感動すら覚えます。この上は、だい60回記念映像祭に向け、今度は、あちこち行かれた旅のうち、特に思い出の深い旅先やエピソードのある所に絞って、一人語りのナレーションで、わが生涯の思い出の旅、の総括をされたいかがでしょう。

5. グランドキャニオン国立公園 B D  
華岡 汪 13分

「作者コメント」

グランドキャニオン国立公園はアメリカで最も人気のある国立公園の一つで、日本の福岡県ほどの広さがあります。標高二千メートルをこえるコロラド草原の千六百メートル以上の下まで、コロラド川が数千年にわたって大地を削って出来た大渓谷なのです。長い距離に及ぶ観光は南側の縁に沿って数カ所のポイントがあり、全て無料のバスで移動できます。特に朝日と夕日に映える、渓谷の壮大で美しい色の変化は圧巻でした。

「会長コメント」

地球上には、こんな素晴らしい景観のある場所があることに、改めて感動。

6. イビザ島再訪 B D  
山本正夢 7分50秒

「作者コメント」

子供が仕事を当地でしている関係で幾度か訪れています。イビザは10月からすべてのクラブが5月まで閉鎖になり、シーズンオフに入ります。ビデオは半分ホームビデオです。

（書記コメント）

イビザ島は地中海に浮かぶスペインの小さな島。ホームビデオにとどまらず、素晴らしい海や町の風景を軽快なテンポで描かれている。

「会長コメント」

外国の地で、室内生活にまで入り込んで撮影できるとは、やはり山本さんでしか出来ないと思います。できれば、第三者にも理解できるように、当地に生活しているわが家族であることをテロップで説明されると、一同、成程と納得できるでしょう。

7. 拳母祭り（もろも祭り） B D  
高瀬辰雄 10分30秒

「作者コメント」

愛知県豊田市の10月の祭り。江戸寛永年間から400年続く祭りとかで、三河三大祭りの一つに挙げられている。豪華な山車と紙吹雪が見どころ。なお三河三大祭りの後の二つほどの祭りを指すのかは不明です。

「会長コメント」

山車も立派ですが紙吹雪がすごいですね。思うにこの膨大な量の紙片を作るのは大変だったろうなあ、ということです。普通、紙吹雪の紙片は皆寄ってたかってハサミで切ったりカッター切り等手作りの事を思い浮かべるもの。これは次元が違う量なので機械で大量に切断しているに違いない。それにしても当夜の祭りが終わってから、一斉に掃除片付けすると思いますが、そういう片付けのカットと、朝きれいに片付いた道路や神社の境内のカットで締めくくられた作品にできれば、全国コンに応募できる出来映えになるとは思います。そうなれば一泊しなければできない話でしょうね。





8. 雅楽に生きる  
中村幸子

B D  
8分41秒



「作者コメント」

平成30年10月映画の改作版。何度か手直しを繰り返したが、どうしても直せないカットがある。鎧の前での竹若さんのインタビューにノイズがあり、EDIUS9のオーディオフィルターのパラメトリックイコライザーをかけてもダメ。どなたかEDIUSでノイズを取る方法を教えてくださいませんか？

（書記コメント）

例会場ではノイズを除去する確かな方法は見つかりませんでした。

「会長コメント」

前作より格段によくなっています。何回も現地を訪ねられ、インタビューもされてつくられた作品だけに深みが出てきています。取り上げられたテーマが特殊な世界で一般の人には馴染まない世界の話だけに、観客受けが少ないであろうことは、想像できますがそれは仕方ありませんね。

9. 桂林紀行 悠久の風景

DVD  
9分36秒



合原一夫

「作者コメント」

中国広西チワン族自治区にある観光のメッカ、桂林へ亡き妻の写真ツアーに同行し撮影したもので、2008年だったから11年前の旅物語です。桂林は流れる漓江（リコウ）という川の両側に4万とも云われる先の尖った山々が林立する風景は何とも言えない感動を覚えました。古都陽朔（ヨウサク）は、中国らしい少数民族の暮らしがあり、旅の楽しさを満喫した思い出が残っています。

10. 剣豪の郷

B D  
8分

森口吉正



「作者コメント」

20年ぶりに柳生の里を訪ねた。10月の日曜日だというのに、出会ったのは農作業中の人たった一人だけだった。

（書記コメント）

かつての剣豪たちの山里も今は自然豊かな長閑な里、そんな風景を情感を込めて落ち着いた映像で表現されている。作品を見て30数年前、京都笠置から柳生の里を通り、奈良へ歩いたことを思い出しました。当時は柳生一族の話が映画やドラマで取り上げられ、訪れる人も多かったと記憶しています。

「会長コメント」

よく描かれており、柳生の郷が現在どうなっているかが伺えました。

※

以上で上映を終了し、会長から12月例会前の幹事会と世話役会の開催の件でお話があり、喫茶組と居酒屋組に別れて21時散会しました。

## 11月第2例会レポート

第2例会は通常例会に先立ち11月21日13時より、いつもの難波市民学習センターで開催、12名の参加と作品10本が出品された。外はこのところ寒くなりコート姿の方も。昼間の例会は本日で終了。司会役は柴辻氏の担当だったがお休みの為前半岡本氏、後半合原会長が引き受けて会を進行されました。

■出席者：植村、江村、岡本、紙本、合原、進藤、関、高瀬、中川、堀、宮崎、山本の12氏

■運営担当：司会 岡本、書記 高瀬、映写 進藤、メモリー記録 江村、受付兼照明 宮崎、中川の各氏

■上映作品（書記担当は高瀬氏）

1. 光秀公像除幕式

B D  
7分40秒

江村一郎



「作者コメント」

丹波亀山城主として亀岡のまちの礎を築いた明智光秀公の像を新たに南郷公園に建立した。5月3日の光秀まつりの中で除幕式が行われたので、その様子を祭りと共にまとめました。

「会長コメント」

除幕式にこれだけのイベントを企画実行されるとは驚きました。パレードから太鼓、ガラシャゆかりの方のスピーチなど盛りだくさんの行事ですが、せっかく銅像ができたのだから、光秀公そのものの人物像と地元の人達の想いを重ねてなにか一本の作品にできないものか、そう感じました。お祭りの作品だけに終わったのでは勿体ない思いがします。

2. 世界遺産百舌鳥・古市古墳群とは BD  
中川良三 8分12秒

「作者コメント」

世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群見学するにしても全体像が見えずインパクトに欠け、見る意味があるのかと考えた。図書館で百舌鳥・古市古墳群が世界遺産になる前の書籍を手にしたので内容を把握し映像で、表現できればと取り組んだ。少しでも理解して頂ければ幸いです。

（書記コメント）

それぞれの古墳の内容をよく調べられ、分かりやすく説明されていて文化的ビデオの趣。

「会長コメント」

この方面に関心にある方には、よきガイドとなるでしょう。よく調べて纏められました。唯、グーグルマップの多用が気になります。ご自分で略図を書いて示した方が観客には判り易く、アマチュアらしい作品になるでしょう。

3. 私が旅した日本の絶景 東日本編 BD  
紙本 勝 12分35秒

「作者コメント」

全都道府県の絶景といわれるうちで私が旅した所を選び、各々30秒前後を基本に東西2編にした作品です。ただ撮影年時が15年前のものも多くあり、サイズ、画質が不揃いなのは致し方のないと思っています。

（書記コメント）

東日本 23 都道府県すべての素晴らしい風景を撮られた「撮影力」と、そのビデオから絶景をピックアップし、まとめられた「編集力」に感服。西日本編が楽しみです。

「会長コメント」

全国を旅されて、1ヶ所30秒のカットで纏められたという大変な旅の集大成。

通常例会レポートの「西日本編」のところでも書きましたが、これら膨大な旅の記録の中から特に思い出の残る処や、エピソードのある場所、感動した風景や地方の方々とのふれあいの思い出など、一人称で振り返ったエッセイ風な纏め方の新作を期待したいものです。

4. モザイクの構図 Part 3 BD  
関 剛 2分50秒

「作者コメント」

10年ほど前の前作を最近起きたエピソードで再編集したもの。政治家、N国党、あいちトリエンナーレ、韓国問題、オリンピックと札幌の話題、進次郎、ノーベル賞など。一部 YouTube の動画を使っているので公開の場合は写真に変えます。

「会長コメント」

この種の作品は、関さんしか出来ないまさに“関剛映像の世界”です。パソコンの編集技術をとことん追求しなければ、こうした特殊効果の編集はできないことです。

ただ作者も自ら指摘しておられるように、著作権がうるさく言われる現在においては、使い方によっては公開映写会には不向きな面があるでしょう。

5. 愛機よありがとう DVD  
合原一夫 17分20秒

「作者コメント」

平成5年（1993年）制作。8ミリフィルムの現像が中止となることになり、ようやく私もビデオに乗り換えることにした。そして8ミリフィルムカメラの撮り納めの旅へと東北へ撮影旅行に行くことに。

8ミリフィルム作品なので、音の収録には別の小型テープレコーダーを持参し、編集の時、ナレーションとともに録音の現場音をミックスして作品用テープに編集、それをマグネコーティングした編集済フィルムに録音する、という大変面倒な作品づくりをした最後の作品。

（書記コメント）

8ミリフィルムカメラへの愛情、いとおしさが全編にわたって感じられ、その思いが観る人にひしひしと伝わってくる作品。

6. 南イタリア紀行 BD  
山本正夢 6分

「作者コメント」

南イタリアは独特な文明を持つ地域で北とは大きく異なります。気候、風土、習慣、特に建物は独特な構造と容貌があり、世界的に珍しく世界遺産に登録されています。





「会長コメント」

珍しい異国の地をいつも見せて頂いている山本作品、今回もウツリ感で拝見、BGM もよくマッチしていました。

7. 鞍馬の火祭り  
高瀬辰雄

B D  
10分20秒



「作者コメント」

5年前に制作したが、その後、5年の間に3回撮影に行き足りし再編集した作品です。鞍馬の火祭りも見物客、特に外人観光客が増え、撮影は年を追って難しくなっているように思います。

「会長コメント」

昼間の準備風景から夜の火祭り、そして明け方まで続く祭りを撮影された、そのご苦労ぶりにまずは脱帽。できればこういう伝統行事を守り受け継いでいかれる方々の声も聞きたいものです。

8. 2019年加太の夏3題  
宮崎紀代子

B D  
11分30秒



「作者コメント」

私の町で行われている夏の主な恒例行事三題を撮影、編集した。

（書記コメント）

「加太」は作者の住まわれている富田林市の地名。P Lの花火、五軒家の盆踊り、龍雲寺の千灯供養を撮られ、地元の夏の風物詩のほのぼのとした温かみを感じられる作品。

「会長コメント」

うーん、ふるさとの夏を思い出しますねえ。私の若いころの故郷は、まだ戦後の名残りもあって、ああいふ PL 花火のような華やかなものはありませんでしたが、夕涼みの庭の番台（田舎ではタタミ1帖くらいの、人が腰かけできる台があった）で線香花などで遊んでいました。盆踊りは無かったが盆には提灯にロウソクの明かりをつけて玄関のところや仏間に飾ってありました。今、故郷の夏はどうなっているのだろうか。高齢化で静かなものかも知れません。

宮崎さんの加太の夏。この作品の狙いは、2019年、今年のをがふるさとと加太の夏を描いたものと受け止めました。

花火、盆踊り、千灯供養の三つの出来事の一つにして「わがふるさとの夏」を描くのであれば、三つのそれぞれの出来事を違和感なく繋ぎ止める場面転換の工夫がほしいところです。例えば、花火の場面に、それを眺めている浴衣姿の女、見ている女にどこか遠くに盆踊りの音がかすかに聞こえ出す、次に、盆踊りの浴衣姿の女、盆踊りの場面へと繋がります。

次は盆踊り会場の提灯の明かり、それから静かにオーバーラップして千灯供養の灯りへと変化していきます。そうして三つの出来事の一つの夏の思い出、加太の2019年の夏を締めくくったら良いのではないかと思います。まあ、これは一つの考えに過ぎませんが、参考にしてください。

9. 安珍の恋  
堀 皓二

B D  
5分40秒



「作者コメント」

安珍清姫伝説よりヒントを得て創作しました。撮影は壬生寺ほか。他クラブの撮影会作品。2010年制作。

（書記コメント）

壬生寺での女性モデルによる撮影会の映像を主にイメージを膨らませ、創作された作品。作者による安珍の語り秀逸。

「会長コメント」

撮影会作品で出演してもらった着物姿の素人の女性を何とか活かして、別の物語の主役にと計画された作品らしいですが安珍清姫のようなドラマ性のある主役にはやはり役不足は否めません。

しかし作者、堀さんの語りはなかなかどうしてうまく物語っておられました。

10. 伝説安珍清姫物語「清姫情炎」

D V D

岡本至弘

12分

「作者コメント」

旧作ですが、11月23日に現地の会場での発表会のため、ご意見のお伺いと、来春の我がクラブの撮影会の参考にならないかと持参しました。2004年、紀伊山地の霊場と参詣道世界遺産登録を記念して、制作したものです。千年も語り継がれる「安珍清姫物語」を偲び、清姫まつりで中辺路清姫太鼓の演奏にのせて清姫の舞と水と炎の競演、そしてその情念が清姫の里に燃え尽きる様を再現しました。

